

2011年 早稲田大学社会科学部 (英語)

I 次の1～10のうち、誤った英語表現を含んだ部分がある場合にはa～dから誤りを1つ選び、誤りがない場合にはeを選んでマーク解答用紙にマークせよ。

1. I really don't know what, if anything, is expecting of me in regard to that very difficult and perplexing problem that I was asked to deal with. NO ERROR

if anything は、「もしあるとしても」といった訳が辞書に載っているけれども、辞書の訳語を当てはめてはしっくりしないことが多いので要注意！ここは「私にもとめられていることがなにかあるにせよ、それがなんであるか(わからない)」といった意味合い。

The New York Times の最近に記事(母子ぐるみで仲良しだった間柄で、自閉症と診断された一人の子が乱暴をはじめ、その弟も兄をまねて乱暴をするようになったしまう。そのような場合にどんな対応をすればいいのか、という母親の悩みについての記事):

.... But that last is becoming a deal breaker for Isabel(a mother), and Isabel feels — strongly — that Sharon(a mother) should at least teach her younger child, who is not autistic, not to fight, for his sake as well as for her daughter's.

What, if anything, could Isabel say or do to try to allow the families to keep hanging out together in the way they always have? Is she right to consider approaching Sharon, or should she accept that the way things are with Sharon and her sons isn't going to change? Should you ever call a friend out on her discipline, especially a friend in Sharon's position, and if you do, can the friendship survive?

(Parental Quandary: When a Friend's Child Hits Yours: <http://nyti.ms/uGutDt>)

ここでは、単に決まり文句というより、前段の内容を踏まえていることに注意:「とるべき発言や行動があるにしても」

b の(is) expecting ofの主語は what なので「受け身」なる必要がある。→what is expected of me
expect something of someone あることをある人に期待する
in regard to は、「～については、～に関して、」
deal with は、「～を処理[処置・処遇]する、～に対応[対処・応対]する、～に取り組む」

2. Nothing seems to irritate William more than having to explain his actions in that unfortunate matter to everyone with who he talks. NO ERROR

Nothing more than

否定語＋比較級は要注意：これは比較的平易だが、「一番いらいらさせること」ということになる。

matter は「多義語」：ここは「問題、事情」。他はここでは一つだけ：mind(こころ)に対する「物質」。

The common state of ~ is solid, liquid or gaseous. 物質の普通の状態は固体か液体か気体である。

with who これが誤り：前置詞の後には「目的格」=whom この場合、訂正の可能性は：

everyone who he talks withあるいはeveryone he talks withが可能。後者は、目的格の関係代名詞の省略。

3. It ^a was customary ^b in that country, the couple ^c decided to get married only after having received the permission of ^d both of their entire families. ^e NO ERROR

こういう問題はどうするのか？こういう問題が分からなからなくても動揺しないことが大切。正解をいつてしまうと a に関係代名詞の As が入る。ただ、ここでは「訂正」する必要はないので、矛盾点を考えて解答すると合理的に正解にたどり着く可能性が高くなる。

It was adj. (that) を思い浮かべることになるが、that がないにせよ、カンマで区切られていること、the couple と「限定された」夫婦であること、少なくともこの二点から、It was adj. は成立しないことが考えられる。そう考えれば、It がおかしい、という結論になる。

4. For the life of me, ^a I can't figure out ^b how Jim was able to get such an unbelievable ^c score on the math test despite ^d he studied less than anyone in our class. ^e NO ERROR

For the life of, ... Not

通例、主文に「否定文」をとり、「～にはどうしても・・・できない」という意味。

figure out は、「理解する」＜計算して答えをだす cf. Work out は「苦労して理解する・解明する」意味。

ここは、despite が誤り。これは前置詞なので後ろに文節はこない。接続詞、though などにする。

文法オタクモードになります。

5. It is next to ^a impossible to predict with any degree ^b of accuracy what exactly ^c will happen in next month's ^d general election. ^e NO ERROR

next は曲者：

a の next to は本来前置詞句。あとには名詞、代名詞をとるが、ここでは形容詞 impossible が来ている。だから副詞句 (=almost) と考える。問題にはなっていないが、d の前の in next month's general election の next の前に定冠詞がない。general election はどの「総選挙」かが想定できるので定冠詞 the をつけることを文法的には考えるが、付けないのが普通。これは、「来月」と今の月が「今月」の時には冠詞を付けないことからきていると思われる（ある月を別に想定している場合には基本的に the を付けるべき）。つまり、今 12 月で、一月に総選挙が行われるという場合。また、month が入らない場合、つまり「次期総選挙」という場合、本来であれば the をつけるべきだろうが、欠落している場合が多く、誤りとは言えない、と考えるべきだろう。

そんな目で今後、n e x t をみても興味深いと思う。

with any degree of w i t h にも下線があると、to ではないかと迷うのかも。to a degree とか to any degree といった言い方が頭にあるからだろう。ここが with になるのは with considerable accuracy のように accuracy の引きずられたもの。例えば、with a great degree of certainty きわめて正確に、ように。また、any degree が準否定語 impossible と結んでいることにも注意。c はなくてもいいだろうがあっても間違いとはいえないだろう。これは、誤りなし、ということでしょう。

6. In that the weather is very changeable these days, it might not be such good idea to hold the class picnic on the coming weekend or even the following one. NO ERROR

in that は、「～の点において、～であるから」

such good idea がおかしい。idea が可算名詞なので単数なら冠詞が必要。such a good idea。最近は問題にされことは少ないが、so good an idea という so を使った表現。

on th coming weekend の on を付けない場合も多い。following one の one は weekend を受ける。

7. How can be that he speaks such flawless English without actually having lived in an English-speaking country before? NO ERROR

主語がないことに気付けるか、が問われている。that を補語とはできない。How は副詞、もしくは形容詞なので主語になれない。また that 以下を主語にすると語順があやまり。t h a t 以下を主語にするには、この節を can と be の間に置きたい。それを可能にするには、仮主語の it を置く。c は living でも OK だろう。

8. You should never make the mistake of underestimating the ability of young to be creative and original in matters of culture. NO ERROR

c の young がおかしい。Young people とするのが最も分かりやすい。あとは the young か youth が可能か。

in matters of culture は「文化の問題において」>「文化に関して」 例文: His ignorance in matters of psychology is shocking. 心理学に関する彼の無知にはあきれる。

to be creative and original は ability を説明。

9. Some people say that there is more profit in selling services than there is in making products, although I'm not sure whether or not that's really true. NO ERROR

profit はここは不可算名詞だから複数にはならない。もちろん there is だから変えようがない。ただし、there are profits in speculative business という複数である場合もある。

問題は in が正しいかにどうか。上記の例にあるように in を後にとる。

than のあとの there is は省略も可能だが、ついている場合も多い。なぜかはわからないが・・・

... whether or not that's really true は、... whether that's really true or not でも OK。

誤りなし。

10. When it comes to classical music, no one, or at least no one that I know, is as familiar with all the major composers and their works as my brother's. NO ERROR

when it comes to ～ ～のこととなると、[必須] at least 少なくとも、[必須]

familiar with1 《be ～》～をよく知っている、～に詳しい [精通している・通じている] [必須]

(my) brother's の d をどうするか? my brother is の省略形、と考えれば OK そうなんだけれど・・・ is 以下

が省略されているわけだから、is にストレスを置くので、省略形にはならない。ちょっと難しい。ただ、than 以下に省略形が来ているケースを見ることはないのではないか。

解答例：

1. b 2. d 3. a 4. d 5. e

6. b 7. a 8. c 9. e 10. d